

白河の翼奇

第 75 号

令和4年7月31日

発行人：支部長 栗林正樹

※題字：白川仁一先生

※印刷：さとう総合印刷

「先輩各位の力強い言葉」

西白河支部長 栗林 正樹



支部長副支部長の役目の一つは、喜寿・米寿・珍寿・百寿の方々のお宅を訪問し、お祝いを申し上げ賀詞状等をお渡しする事です。

受賞者のお話を伺うと多くの方は前向きにご自分の日々の生活のお話をして下さり、お一人でお暮らしの方でも毎日を有意義にそして健康に気をつけていらっしゃる事、服装も身の周りもきちんとされていることに感心させられました。病院通いや薬を毎日飲んでいらっしゃる方、また「88歳を過ぎ夫と老々介護の日々ですよ。」とおっしゃられた奥様もいらっしゃいました。そして、施設に入所されているので会えずにご家族から賀詞状記念品等の伝達をお願いし、現在のご様子などをお伺いしたこともありました。

次第に現職時代のことや現在の暮らしのことなど話が弾み、30分くらいで失礼しようと考えていても時には1時間近くがあつという間に過ぎていくことに驚いたこともありました。そうして、いろいろと教えられた思いで帰りました。それは、翻って自分自身の反省に繋がって来るのでした。今もってその日暮らしのような自分はこれでいいのか。

朝は7時過ぎに起きて歯を磨き外に出て朝日を浴びて茶の間に行き妻と朝食をとる。新聞二紙10時くらいまで読み、それから、読書か調べ物などで半日が終わり、昼食は妻がいれば一緒に食べ、妻が出かける時は、お握りにおかずを昔で言えば蠅帳、今は小じゃれた被せものをかけておいて行ってくれるお昼を一人で食べる。妻は趣味や様々な町の婦人会やら赤十字や

ボランティア、体操など週に7、8の集まりがあり家にいることが少ないことを私は以前は知りませんでした。いや、もしかしたら、私が退職して家にいることが多くなったので、それに合わせて会合を増やしたのかもしれませんが。

私もやりたいことが山ほどありますが、なかなか手に着かないこともあります。去年は終活に向けて本などを相当処分しました。その外シュレッダーで裁断処分したものもありますが、終活はまだ半ばです。

5月に帰省した息子に2箱渡すと、

「えっ、もらっても仕方ないなあ？」

「ごみじゃない。孫が喜びそうな本や玩具などだ。でもいらなかったら捨ててもよい。」と車に乗せました。途中高速のサービスエリアのごみ箱に捨てるんじゃないかな？

先輩方の日々の暮らしを思うと、こんな気ままな暮らしではいけないのかなと反省しているところです。

先輩各位の米寿88歳、後13年、私はそこまで生きられるだろうか？私は父が70歳を過ぎたころ聞いたことがあります。

「お父さんは体の悪いところもないし長生きできるね。」

「前は、後10年。と10年単位で考えて来たが今は後5年と思っている。」

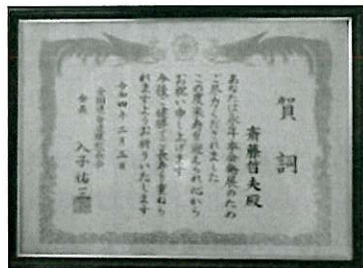
と言っていたことを思い出しました。父は88歳で胃癌でなくなりました。父の兄も母方の父も胃癌で亡くなっていたのです。母は101歳老衰でなくなりました。私は父の年までは生きたいものだと思います。

健康長寿は誰しもが願うことですが、願うだけではなく日々継続した健康生活をすべきことは私も分かってはいます。先輩の生き方に学んで歩んでいきたいと思いました。

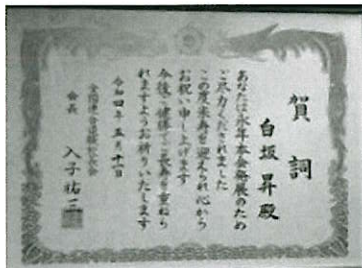
《おめでとうございます》

この度、三瓶俊明先生、白坂昇先生、が全国連合退職校長会より「賀詞」（満88歳）を受けられました。栗林支部長、大戸・関根副支部長がご自宅を訪問し、全国連合退職校長会長からの賀詞状を代理でお渡ししてまいりました。心からお祝い申し上げます。

前回紹介させていただいた斎藤哲夫先生、白川仁一先生へのお祝いメッセージも今回掲載いたします。



斎藤哲夫先生



白坂 昇先生



白川仁一先生



三瓶俊明先生

斎藤哲夫先生米寿
誠におめでとうございます

栗林 正樹

斎藤哲夫先生のお宅には、大戸副支部長と二人で訪問し、米寿の賀詞状と支部からのお祝い品の贈呈をいたしました。

先生は定年退職後の平成7年から約20年間、「白河青い窓」の発行に尽力されました。先生を筆頭に金内啓四郎、尾平孝次、中畑満、圓谷厚子の先生方と私も加えていただき、挿絵画家として本田雄一先生の7人が同人となりました。そして「青い窓」郡山市の柏屋と佐藤先生に「白河青い窓」の名称使用の許可を得、作品収集から印刷所との折衝、詩の作者の児童生徒や関係者、各小中学校への配布までほぼお一人で行ってこられました。斎藤先生の子供たちの詩心を大切に、詩を書く子供たちを育てたいという思いの深さが感じられました。

米寿のお祝いに訪問すると「私は特に功績はないので叙勲は辞退したが、本当は米寿のお祝いも辞退したかった。」とおっしゃられましたが、『白河青い窓』の件でも、また、次のような教え子たちの言葉からも叙勲の辞退は残念に思えてなりません。

お部屋には大きな座布団が二枚ありました。釜子小時代の子供たちが還暦の時に斎藤哲夫先生と奥様の澄子先生にと贈って下さって、「先生ご夫妻にはお子様がいらっしやらないのだから、私たちが子供だと思ってください。」と言って、今でも時々「先生、何か困っていることないですか。」と顔を見せてくれるのはありがたい。と目を細められました。奥様は先年亡くなられ、今はお一人住まいですが、お元気にお過ごしでした。これからも長寿を重ねられますようお祈りしたいと思います。

白川仁一先生の
叙勲・米寿を祝して

大戸 祐一

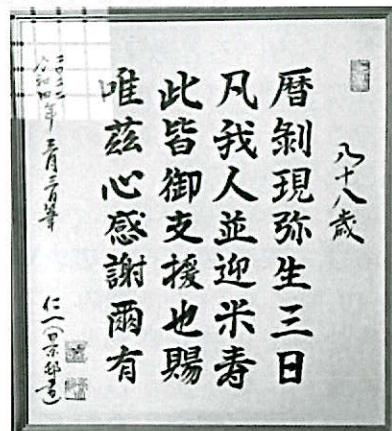
白川先生は去る3月3日に米寿を迎えられましたので、数日後に栗林支部長と共に、ご自宅を訪問し、全国連合退職校長会長からの賀詞状を、奥様と娘さんがいらっしやる中でお渡しいたしました。

私達が通された部屋には、お孫さん達からの米寿を祝して贈られた胡蝶蘭や、歌手として活躍されているお孫さんの津吹みゆさんの写真やポスターも飾られており、ご家族皆さんが先生の米寿をお祝いしていると感じられました。

先生は、現職時代を振り返り、教頭時代には、表郷小学校に5つの小学校が統合された時、初めての教頭として務めたこと、校長時代には、勿来の小学校の校長から転勤する時、これまでの教員生活が小学校しか経験がないにもかかわらず、東北中学校の校長を命じられたことなどを思い出深く話されておりました。

書道家である先生は、七言絶句の漢詩に、米寿を迎えたことへの感謝の思いを書かれ、額に入れて飾られておりました。

この度の叙勲・米寿をご健康で迎えられましたこと、改めてお祝い申し上げます。今後とも、白川仁一先生、そして奥様・ご家族の皆さまのご健勝をお祈り申し上げます。



三瓶俊明先生の 「瑞寶雙光章」受章を祝して

佐藤 正弘

この度は米寿と瑞寶雙光章の受章誠におめでとうございます。今回このようにお祝いの言葉を述べる機会を与えて頂き大変嬉しく思います。

私が三瓶校長先生にお仕えしたのは平成5年、表郷中学校で勤務した教頭二年目の年でした。

職員を大切に思い、穏やかな中にもリーダーとして威厳のある校長先生で、まだ新米であった私に対しても組織の中で教頭はどのように動けば良いのか、どんな配慮が必要なのかなど学校運営に必要なことを具体的に教えていただきました。

先生は音楽科教師として県や県南地区で指導的な立場で活躍されるとともに、勤務した中学校では合唱部や吹奏楽部、弦楽部等の立ち上げに携われました。教科指導を始め生徒指導や進路指導など中学校の重要な分野に多くの実績を残された先生は今でも私達後輩の手本です。

最後の勤務校となった表郷中学校でも先生は吹奏楽部を新設し、地域の行事やミニ国体表郷会場の野球式典では指導を受けた生徒による素晴らしい演奏が披露されました。

また地域の活性化協会にも所属され、オーストラリアの学校との姉妹校締結や訪問などを推進する国際交流事業にも力を注がれました。

先日、那須塩原市で久しぶりに元気なお姿を拝見し、お話を伺うことが出来ました。

退職した2年後に黒磯市（現在の那須塩原市）に転居され、購入された広大な原野を開墾し、畑作を始められるとともに、趣味として油絵やパソコンを習われたそうです。三瓶先生と奥様の力作が載った毎年の年賀状が私の年頭の楽しみでした。また、近くの自然の中で山狩りや釣りなどの川遊びを楽しまれるなど、自然の中で充実した第二の人生を楽しまれておられます。

三瓶先生には今後とも健康に留意され、私達後輩を見守り続けていただきたいと思います。

白坂昇先生米寿・瑞寶雙光章 ご受章おめでとうございます

田中 國夫

白坂昇校長先生、長らくのご無沙汰を御赦し下さい。私は教頭2校目、泉崎第一小学校でお世話になりました田中でございます。

この度は、米寿・瑞寶雙光章ご受章おめでとうございます。現在78歳の私は、もう10年間頑張れば受章できるかもしれません。

さて、あの頃泉崎一小では、水泳の朝練、東北大会をめざすマーチングバンド、子ども自転車大会への参加等々、学習指導の他にも様々な活動をしておりました。

当初小生は、これらの活動は、すべて校長先生のご指導、ご指示によるものと思っておりましたところ、それは全くの思い違いで、校長先生はいつもにこやかに学校全体を見守り、草花の世話やプールの安全確認など、職員の手回れなところを一人黙々となさっておりました。

また、子どものための『竜馬が行く』のビデオ編集や、ふるさとへの愛を深める生活科の学習資料『四季の野草』発行のための写真撮影、執筆等、それはそれは大変なご苦勞をなんの苦も無く取り組んでおられました。ただ感服の至りです。

ところで、私事になりますが小生30歳、会津におりました。雪の沼尻スキー場、男坂、パラレルでスタート。ゴール直前、リフト鉄柱に激突転倒。その時は「大丈夫」とすぐに立つこともできました。

ところが徐々に頸椎損傷の悪化。退職までは何とか持ち堪えましたが、現在は左足が動かずリハビリ中です。

先日診察中、院長先生から「78歳なのでもう10年は頑張りなさい」と。そうだ米寿だ。

白坂校長先生、どうかお元気で過ごして下さい。

『新会員の先生方から』

クラブ活動で積極的に交流

荒井 孝祐



この度、矢吹中学校を定年退職し、退職校長会へ入会させていただきました、荒井孝祐と申します。4月は生活リズムに違和感がありましたが、それにも慣れ、無事教職生活を定年まで全うできたことに大きな満足感とわずかな心残りを持ちながらこれまでを振り返りました。

いろいろな場面でこれまで支えてくださった

先輩方や同僚に感謝するとともに、丈夫な体を授けてくれた両親、家庭を支えてくれた妻にはこれまでの恩返しをしようと改めて思いました。

今後はお世話になった教育界にできることで微力ながら恩返しをしつつ、教育以外の新たな分野にも挑戦しようと計画しています。退職校長会にはクラブ活動がありますので、様々な活動を通じてたくさんの先輩方と出会い、交流できることを楽しみにしています。時間がとれるときには積極的に参加させていただきます。

若輩者で至らぬ点もあるかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

園児の笑顔に励まされて



野崎 浩二

教職生活38年間を無事勤め上げ、4月より初任教頭として着任した須賀川市小塩江中学校の近くにある小塩江幼稚園でお世話になっております。見慣れた田園風景をたどり宇津峰山を眺めながら、そして小塩江中学校勤務時代を懐かしく思い返しながらか、毎日元気に勤務しております。

5月下旬に「幼小合同なかよし大運動会」が行われました。小学校低学年との合同玉入れに、親子大玉転がし競走、幼小合同の学年縦割りリレーに、創作ダンスの披露にと。応援に駆け付けたご両親をはじめ祖父母の皆さんも、我が子(孫)の成長に目を細め、声をからして応援する姿が見られ、大いに盛り上がりました。2か月余りの練習を経て、目を輝かせ満面の笑みで演技・競技する園児の姿に励まされております。引き続き、ご指導ご鞭撻をお願いします。

いつでもチャレンジャー



渡邊 郁夫

3月で無事に教員生活を全うすることができました。これも諸先輩の皆様のご指導とこれまで支えていただいた先生方のおかげです。心から感謝申し上げます。

これまで子どもたちや先生方にチャレンジする心の大切さを伝えてきました。私自身も登山、マラソン、トライアスロンなどを通していろいろな人に出会い、視野が広がりが、人に支えられて生きている自分に気づくことができました。退職後、42年ぶりに自動車学校に入校して大型特殊免許をとりました。6時間の教習と卒業検定でしたが、新しいことを学ぶワクワクとした気持ちや緊張感を味わうことができました。

新しいチャレンジのための第一歩ですが、これからも学ぶことを続けていきます。何かを諦めると「老いる」が始まると聞いたことがあります。「やめない・あきらめない」気力と体力を維持できるように頑張ります。

ハッピー・リタイアメント



小峰 光

この度は、退職校長会西白河支部へ入会させていただきましたありがとうございます。

現職中は、諸先輩にご尽力いただき、最後まで教職を全うでき成長させていただきましたことに感謝いたします。

さて、外国では「ハッピー・リタイアメント」という言葉があるそうです。定年退職は、勤め人にとって「宿命」といったのは昔のことで、退職後が人生にとって大切だと思っています。文章に、読点、句点、行替えがありますが、定

年退職は句点や行替えではなく、読点にすぎないと思っています。現在、自分の人生に句点を打った後の文章を綴れるように、諸先輩の後ろ姿を見せていただきながら歩んで参りたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。

「縁」



桑原 透

泉崎中学校を最後に定年退職して、4月より退職校長会西白河支部に入会させていただきました。どうぞよろしく願いいたします。今は矢吹町の放課後児童クラブのお手伝いをさせていただいております。直接児童の世話をすることも時々ありますが、支援員さんや児童クラブの管理が主な仕事です。今までに経験したことのない仕事なので、悪戦苦闘の日々です。

私は矢吹中学校に平成3年度から10年間在籍していました。当時の教え子が児童クラブの保護者だったりして、数十年ぶりの再会もあって嬉しかったりビックリしたりです。教員生活の中で最も長く働いた矢吹町に縁があったのかと、とても不思議に感じます。また、矢吹町には中学時代の恩師や先輩の先生方も多くいます。毎日、町内の4つの小学校を巡回していますので、見かけたら声をかけてください。

お役に立てるのあれば



二瓶 敦

中畑小学校が3月31日に無事だったことを見届け、翌4月1日から白江こども園勤務が始まりました。

「こんな私でお役に立てるのであれば」と新しい職場に迎えていただきました。が、就学前の園児たちの保育に何の知識も技術もない私に何ができるでもなく、かろうじて電話番号と文書の押印・事務処理そして園庭の除草ができるくらいです。デジタル化の波にもまれて、教えを請う日々です。

そこで、自分だけの事務研究ノートを作成し、実践研究を始めました。毎日、園の職員の方々に支えていただき、園児たちの元気な様子や姿に接して、心温まる日々です。

小さな子どもが私に話しかけます。
「ひゅえぶにまにてるんの？」
「ちよれがめにもりゃんたの？」
うーん、私まだまだお役に立てません。

《ご冥福をお祈り申し上げます》

星 輝夫先生 令和4年5月18日ご逝去

《編集後記》

例年より早い梅雨明けとなりました。明るく元気でさわやかな夏休みになりますように！
広報係